



# 岐阜大学機関リポジトリ

## Gifu University Institutional Repository

Title	7. 留学生指導(年報編,2003年度後学期・2004年度前学期)
Author(s)	太田, 孝子
Citation	[岐阜大学留学生センター紀要 = Bulletin of the International Student Center Gifu University] no.[2004] p.[55]-[60]
Issue Date	2005-03
Rights	
Version	岐阜大学留学生センター (The International Student Center Gifu University)
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/3426">http://hdl.handle.net/20.500.12099/3426</a>

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

## 7. 留学生指導

留学生センター教授 太田孝子

2003年10月から2004年9月までの1年間に留学生指導部門が行った主な活動を、以下に報告する。

### 1. 留学生に対する指導・相談活動

#### 1.1. 指導部門の体制

後述する相談は、従来と同様に留学生指導担当者が全面的に担い、必要に応じて相談者の指導教員、関連部署の担当者、センター長、留学生課等に相談し、助言や協力を求めた。

2004年4月からは留学生センターの増改築により、留学生指導担当者の研究室がセンター内に移転した他、待望の「学生相談室」も増設された。しかし、相談室開室時間に関しては当年もほとんど意味をなさず、留学生は時間外にも相談に訪れたため、その都度対応した。相談内容の概要は以下の通りである。

#### 1.2. 相談の概要

##### 1.2.1. 相談件数とその内容

(数字の左側は2003年度後期分、右側は2004年度前期分の相談件数を示す)

##### (1) 留学生からの相談

##### (a) 学業関係 (51件・56件)

授業・研究関係、単位の不足・未履修・留年等進級関係(学生本人との面談の他、科目担当者・指導教官・留学生課・学部・全学共通事務等との相談・連絡)、大学院受験(入試の手続きについての問い合わせ、願書等の記入依頼・記入方法の説明、チェックなど)、日本語関係(オリエンテーション、全学共通教育・日本語補講・予備教育の日本語の内容確認、プレースメント・テストの日程、教室、時間割の問い合わせなど)、日韓理工系学生へのアンケート調査、家族親族の留学呼び寄せ・指導教官への依頼(勉学・研究関係)、など

##### (b) 生活一般 (39件・34件)

各種オリエンテーションの実施関係(日時場所の連絡・説明・当日の運営・実施など)、銀行関係(カードの作成、振り込み・引き落としの手続き、カード紛失、両替など)、保育園入園関係(市役所への申請書の記入、市役所・保育園への問い合わせ・諸連絡、配偶者のアルバイトの証明関係)、大学祭関係、クレジットカードの申請書作成、など

##### (c) 経済問題 (20件・38件)

経済的問題の相談、授業料免除(申請の方法、申請書の記入、決定に関する説明・不満・関連部署との相談など)、奨学金関係(奨学金の種類・内容、決定の方法に関する質問、各奨学金への申請・手続きなど)、貸付制度の利用申請・返却手続き、アルバイト・求職、など

##### (d) 住宅問題 (11件・16件)

国際交流会館関係(入居時の説明、入居延長などの手続き、掃除当番をしないなど入居者間のトラブル、入居希望、など)、民間アパート探し・入居・家賃などの問い合わせ・不動産屋・家

主との連絡・交渉・退去手続き、など

(e) 健康問題 (13 件・8 件)

健康診断関係 (問診票の記入・説明、健康診断の手伝い・保健管理センターとの諸連絡など)、病院への付き添い、保健管理センターへの健康診断書の依頼・記入、薬の飲み方などの説明、病院との連絡、など

(f) 入管関係 (19 件・26 件)

一時帰国・家族の呼び寄せに関する質問・書類の記入・名古屋入国管理局への問い合わせ・連絡、結婚・出生証明書の翻訳、滞在延長手続、など

(g) 市役所関係 (11 件・15 件)

外国人登録、国民健康保険加入手続き・保険料の訂正、保育園入園関係、法律相談、など

(h) トラブルの相談 (31 件・44 件)

学生の私的トラブルへの対応、セクハラ問題に対する対応・関係者との面談・連絡など、事故後の処理・保険会社との話し合い、自転車盗難、紛失物、など

(2) 日本語研修コース研修生関係 (27 件・22 件)

来日時の出迎え・諸対応・各種手続き、各種オリエンテーション、会館入居・退去、大学院受験の願書の説明・記入、など

(3) 日本人学生からの相談 (35 件・47 件)

留学に関する一般的質問 (サマースクールを含む)、協定校等への応募から出発・帰国後の勉学・進路等の相談、TOEFL 受験関係、留学中のメールでの諸相談、学業その他の相談、クラブの諸活動・月例行事の相談、など

(4) 大学内外関係 (38 件・27 件)

岐阜大学他学部からの問い合わせ (留学生の受け入れに関する相談、留学生の親族の面談・事務手続き、学生の調査・連絡など)、非常勤講師・岐阜大教職員からの相談、他大学からの相談、ドイツ人学生との交流会関係 (受入団体との連絡、学生の選抜、事前研修・打ち合わせなど)、留学生の家族からの相談、など

計 629 件 (295 件・334 件)

### 1.2.2. 相談の特徴

相談件数は昨年より 150 件程増加した。主に、①留年・退学等に関する相談、②日本人学生の留学希望者からの相談、③授業料免除が半額免除になったことに起因する相談、などの増加によるものである。相談の特徴を以下に記しておきたい。

①の留年・退学等に関する相談は、特に単位不足、未履修などにより進級できなかった留学生、課程内に単位取得、論文提出ができなかったために退学または留学期間の延長となった留学生からの相談である。本人との面談の他、指導教員、関連部署の担当者、科目担当者、留学生課などと協議を重ね対応したが、経済問題も含む複雑な相談もあった。

②留学を希望する日本人学生の相談が増加した。漠然と海外に行ってみたいという目的がはっきりしない学生や単に英語を勉強したいという学生が半数以上であり、そのほとんどが TOEFL の受験方法も知らない状態であった。また、大学院進学予定もなく学部在籍中に留学することが不可能な

4 年生の相談も目立った。そのため、個別の相談に応じた他、留学生課と協力して、留学のためにいつ何を準備し、どのように実行すればいいのか計画的に留学を考えてもらうために、「留学説明会」（6月30日実施）を開催した。当日は、協定校への留学の方法・手続き、TOEFL 受験などの説明の他、留学から帰った学生に体験談を話してもらった。参加者は25名であったが、時間を延長してかなり具体的な質問が出され、活発な会となった。

今年のサマースクールは、4月に2回説明会を行ない参加者を募った。アメリカのビザ取得が難しくなったこと、中国の協定校への参加者が3名で規定に満たなかったことなどの理由により、今年はグリフィス大学一校で実施し、16名が参加した。参加者に対しては、個別の相談に応じた他、「事前英語学習」（7月～8月に30時間実施）、「異文化理解セミナー」（8月2～3日に各4時間実施）などを行なって、留学の実態を伝え、出発に備えた。「留学説明会」およびサマースクール参加者への事前教育は、今後も継続していく予定である。

一方、漠然と海外に行ってみたいということで来室した学生の中の3名に「青年海外協力隊」の説明会に出席するようすすめたのだが、その内の1名が合格し、来年3月からマーシャル諸島に派遣されることになったという嬉しい報告があった。

③法人化に伴い、岐阜大学では授業料免除がこれまでの全額免除から半額免除に変更になったため、授業料を払うことができないという相談が増加した。免除者の決定に対する不満、疑問などを訴えるケースが多かった。しかし、「授業料免除」を当然のこととして自己主張を繰り返す留学生に納得してもらえよう説明するのは難しく、特にアジアからの留学生には「授業料」に対する認識の相違が目立った。留学生から経済的な問題を訴えられることが多いが、留学前に大学の授業料や奨学金の状況、日本の生活実態、物価などに関する情報をなぜ調べて来ないのか疑問に感じることも事実である。母国の学生には日本の大学や社会の実態を伝えてほしいということも依頼した。

④セクシャルハラスメントや類似の事件が幾つかが起り、関連部署と慎重に相談を重ねながら対処した。しかし、未だに解決しない問題を抱えており、この主の問題の解決は難しいことを実感している。

## 2. アンケート結果

3月および9月のコース修了時に、生活面を中心としたアンケートを実施した。日本語研修生（15期、16期生）、日研生（3期）および交換留学生、計16名から回答があったが、回収率は6割に満たなかった。また、部分的に従来のアンケートを変更し、質問を省いた項目もある。結果は以下の通りである。

### ①日本への留学の動機（複数回答）

- ・日本の文化や社会に興味があったから（12）
- ・奨学金がもらえたから（3）
- ・専門分野のレベルや研究内容がよかったから（5）
- ・外国で学んだり生活したかったから（7）
- ・その他（5）—— 母国でも日本語を専攻していたため（2）  
サマースクールや留学で岐阜大学に来たことがあったから（2）

協定校だったから (1)

## ②会館での生活について

### \*何か困ったことはなかったか

- ・なかった (14)
- ・あった (2) —— 日本に到着したとき風邪をひいていて体調がよくなかった (1)  
すぐ両替ができなかった (1)

### \*来日直後誰が助けてくれたか —— 同国の友達 (12)

太田先生 (3)

チューター (2)

### \*どんな助けが必要だったか

- ・ゴミの分別の方法・出し方の詳しい説明 (5)
- ・当番の仕事の内容・やり方など (4)
- ・ガス、洗濯機、エアコンなどの使い方、日本語の表示の説明 (2)
- ・携帯の買い方 (1)

### \*会館に対する意見

- ・共通の場 (補食室、ロビー、シャワー、ランドリー、トイレなど) が汚く、当番が掃除しない (10)
- ・会館のルールを守らない人がいる (5)
- ・食事やパーティなどを夜遅くまでやっていたり、後片づけがきちんとできていない (3)
- ・同じ国の留学生が食堂などに集まって話していて騒々しく、迷惑 (3)

### \*チューターについて

- ・普通 (9)
- ・特定のチューターはよく助けてくれた (3)
- ・何も助けてもらわなかった (2)
- ・交流がなかった (1)

### \*チューターの印象

- ・親切でいい人 (3)
- ・ほとんど会ったことがない (2)
- ・何もしていないチューターもいた (1)
- ・チューター全員を知らない (1)

### \*チューターに対する希望

- ・会館のルール (特に掃除当番) を守るように指導してほしい (9)
- ・もっと会館にいて、留学生と交流してほしい (3)
- ・ゴミの出し方や掃除の仕方をきちんと教えてほしい (3)

### \*会館での人間関係

- ・多くの国の留学生と知り合うことができたよかった (7)
- ・当番を全くしない人や騒々しい人もいて嫌だと思っていた (3)
- ・会館での生活は楽しかった (2)
- ・普通 (2)
- ・同じ国の人と母国語で話していたため、親しくなる人が限られていた (2)

\*日本人の友達はできたか、それはどんな友達か

- ・できた (15) —— 同じ研究室・学部の学生 (6)  
     「RyugakuLove」の日本人学生 (6)  
     日本語のクラスに参加してくれた日本人学生(2)ーただしそれ程親しくはない  
     回答者の国に行ったことのある人、外国に住んだことのある人 (2)
- ・無回答 (1)

\*会館への希望

- ・もっと清潔な環境にしてほしい (7)
- ・同じ国の留学生を大勢同じ階に入れないでほしい (5)
- ・チューター以外の日本人学生も入居させてほしい (2)
- ・共通の場を平等に使えるようにしてほしい (一部の人が占領している時がある) (1)

③岐阜大学の生活にはどのくらい満足しているか

- ・大変満足 (4)
- ・ほぼ満足 (6)
- ・普通 (4)

④日本での生活で一番大変だったことは何か (自由記述)

- ・物価が高いので私費留学生には困難 (5)
- ・日本語 —— 特に読むこと、書くこと、漢字 (4)
- ・いいアルバイトが見つからない (2)
- ・アルバイトをする時間がない (1)
- ・特にない (2)

⑤病気をしたか

- ・いいえ (12)
- ・はい (4) —— 自国から持ってきた薬を飲んだ (4)  
     病院に連れていってもらった (2)  
     同国人の友人に看病してもらった (2)

⑥岐阜大学での一番の思い出は何か (自由記述)

- ・大学主催のスキー教室 (7)
- ・大学主催のバス旅行 (2)
- ・長良川での花火見物 (2)
- ・センターの先生方とクラスの友達 (2)
- ・クラブ (RyugakuLove) でのお神輿作りや日本人学生との交流 (2)
- ・友人との旅行 (1)

⑦次の学部での学びに不安はあるか

- ・無い (11)
- ・少しある (3)
- ・ある (2) —— 授業の日本語を理解できるかどうか心配

### 3. 本年度の活動の総括

今期も様々な問題が起こったが、そのほとんどには対応することができた。しかし、関連部署との話し合いを重ねても、なかなか思うように解決に結びつかない問題もあり、組織の壁を感じるが多かった。

また、留学生の子どもの保育園に関する日本語の書類や連絡帳を逐一訳したり、個々人の経済問題等を相談される度に、日本という国に留学生を受け入れることの難しさと、留学生の意識や感覚の相違を痛感させられた。

反面、文部科学省が日本人学生の留学派遣を推進していることも相まって、「派遣」の準備に力を入れた。そのため、サマースクールの参加者は16人と、前年の7人を大きく上回った。記述したように、「留学説明会」や留学希望者に対する「異文化理解セミナー」などを開催して出発前の準備を支援した。この準備が実際どのように役立ったのかをきちんと把握し、今後に反映させていかなければならないと考えている。